


しかはま自然観察会  『人も 自然も みんなともだち !』No.2	代表責任者 古高 利男 ☎270-1132 我孫子市湖北台2-14-7 ☎090-7275-9890 2018, 4, 28~30
--	--

第2回活動 「古民家キャンプ」

3年目の古民家キャンプ。
 今年は、どんな様子だったでしょうか？
 雪はまだ残っていたのでしょうか？
 部屋には、やっぱりカメムシがいたのでしょうか？

- 1, 日 時： 2018年4月28～30（日）2泊3日
- 2, 天 気： 3日間とも、雲一つ無いとても良い天気でした。
 気温・・・朝方で7℃ぐらい、冷えませんでした。
- 3, 交 通：○現地集合

4. 場 所：○みなかみ町藤原一畝田

5, 参加者：総数14人

内訳	5家族	大人	7
		中学生	0
		小学生	3
		幼児	2
		スタッフ	2

6, 活動の様子

○1日目：4月28日（土）快晴

14:00 全員集合

みそ汁を作って、みんなでお昼の食事。

その後、いつものように、掃除や部屋の片付け、トイレの掃除などをしました。

古民家から見下ろす一畝田の田んぼへ、ブラブラと散歩に出かけました。太くて美味しそうなワラビが用水路の斜面にはえていました。「えー！これがワラビなの？」と言いながら、楽しそうに摘んでいました。フキノトウもありました。他の草が芽をだしていないので、早春のワラビやフキノトウはよく目につきました。

タンポポの茎を使って、笛にして鳴らしました。でも、子どもたちにとって、ちょっと難しそう。みごと音の出た子もい

ました。何回も練習すると、簡単に鳴るようになりますよ！
田んぼの水たまりには、真っ黒になって群がるオタマジャクシが見つかりました。太陽の熱を吸い込んで、水が温かいからでしょうか。でも、このまま晴天が続くと、水が干上がってしまいそうです。その前に、無事カエルになれるでしょうか？

田んぼの中の広い道をみんなで歩いていると、とりとめのない話が心地よい風にどンドン吸い上げられていくようでした。

18:00

夕食

薪ストーブで作る料理は、格別だ！汚れのない清澄な空気と田んぼ・森・遠く of 山々に小川の音、それらがあたりまえの味付けをしてくれているようだ。

- ・ ご飯
- ・ 焼き肉は、牛・豚・手羽
- ・ つけもの
- ・ 阿部さんからの差し入れの蒔きそとフキノトウの煮物

20:00

星の観察

春日さんの説明が始まる。

北斗七星、オリオン座、金星、流れ星、大きい月。

21:00

反省会

外は6, 5℃と寒いので、囲炉裏の回りに集まった。

この囲炉裏の中の赤い炭火を見つめながら酌み交わすと、酒と話がはすすみます！！

○二日目：4月29日（日） 早朝6℃

朝から雲一つ無い青空だ！

春日さんはもう起きて、ストーブの煙をもこもこと立てている。大きく息を吸うと、全身に精気が充満してくるようだ！

6:30

車からラジオが聞こえてくる。ラジオ体操の音楽。でも、子どもたちは、だれも起きてこない。

大人二人の、ラジオ体操。

朝食を済ませ、登山の準備。

今日は、初めて雨呼山の縦走に挑戦する。古民家から登り、頂上から明川方面の寺川峠へ降りるコースだ。

9:05

登山口

すぐ近くでカントウタンポポの群落を見つける。めずらしい！そして、白花エンレイソウが10本ほどかたまって咲いている。こんなところにあっただ！踏みつけないように、杉林の中を進んで行く。ミズナラの落ち葉を踏みしめながら斜面を横切ると、稜線につく。少しの間ですが、急な登りで

岩がゴツゴツでているここが一番の難所。ゆっくり歩めば、子どもでも大丈夫だ。昨年7月に、ここでシヤクジョウソウを見つけた。淡黄色の花を咲かせているが緑の葉っぱはない。腐生植物の仲間らしい。今日も見つかるかな？と思ったが、残念でした。

9 : 32

政五郎山

ここまでが稜線歩きで、あとは広い尾根を歩く。道の両側にクロモジの黄色い花をたくさん見かけた。クロモジといえは、和菓子に使う楊枝だ。黒と白のストライプの模様で薫りがいいのだ。

ブナの木も多い。白い肌に模様が入っている。その模様は地衣類の仲間、菌と藻類が共生しているらしい。なんとも不思議な生物だ。公園の桜の幹にも、灰褐色のものが多数付着していることを思い出す。

10 : 00

雨呼山 911標

なんとなく、楽に登ってきた感じだ。

頂上からは、藤原の里山集落を鳥瞰することができる。集落の回りには棚田や畑があり、スキー場があり、その上が上ノ原の茅場で、その向こうに武尊山などの高い山が見える。反対側には藤原湖と谷川連峰を望む。美しい風景だ！

それぞれ、思い思いに、30分を過ごし、記念写真を撮ってから下山にはいる。この山頂北斜面にはショウジョウバカマがいくつもピンクのボサボサ頭のような花を咲かせていた。来るたびに、気になる花だ。ケヤキの花を見つける。葉と葉の間に小さな黄色い花が房状についている。目につくのは雄花のようだ雌花はどこだ？木の花は、小さく目立たないものが多い。木は大きくなるので、花も大きいという先入観がある。が、小さい花も多く、目線より上にあるので気づかない事が多いのだ。

頂上から寺山峠までのコースは、落ち葉を踏みしめコケ植物を観察しながらのんびり歩ける。冬も、とてもいいコースだ。

11 : 10

寺山峠

峠に着くと、2台の車が止まっていた。その傍らで、老夫婦がシートの上に食べ物を並べて昼食をとっていた。いい光景だ。新緑に囲まれながらの団らんは、最高の贅沢ではないだろうか！こういう里山ですることに、自信を持ってもらいたい。最高の価値なんだから！

車道を下っていく。車道では、ミズナラやブナの新緑の枝が目の前にぶつかってくる。観察には最高だ。

名倉川

武尊山から流れ出る清流だ。岸边にはニリンソウが白い花を気持ちよさそうに咲いている。岩魚もいそうだ。

遊山館

トイレ休憩に立ち寄る。ここは誰でも利用出来るトイレがある。しかし、初めての人にはわからない。そのための施設なのだから、分かるようにすべきだ。駐車場の山側に小さな池があり、夏になるとホタルが舞う。

十王水とおう永寺

おう永寺参道を行くと、湧水が湧き出ている。歩き続けてきた私たちにとっては、ひじょうにありがたいお水であった。

「おいしい！」すぐ横の沼には、水芭蕉が咲いていた。こんなところで見られるなんて、ラッキー！！

車道を、なおも下っていくと、昼食場所の関ヶ原が見えてきた。

12:10 民宿関ヶ原に到着。

女将さんが、カレーライスを作って、待っていてくれた。犬のクーくんも、しっぽを振って出迎えてくれた。

「いただきます」の合図で、パクつく。「うまい！」お腹が空くことが、最高の味付けだ。子どもも大人も、何杯もおかわりをする。食べっぷりが気持ちいい！こうやって、みんなと食べる食事の美味しさ、最高だ！

女将さんは、たくさん食べることを喜んでくれる。

この民宿は、以前は、のらえもんが定宿にしていたところだ。

13:30 古民家に戻る。

ブラブラと歩き、道祖神を見たり藤原小中学校を仰いだり、橋の上では魚を探したりしながら古民家に戻る。みんな、お腹がいっぱいなので、動きが鈍い。

こうなれば、あとは温泉しかない。

15:00 宝川温泉へ

希望者は、車に分乗して出かける。残留組は、ストーブの回りでコーヒーを飲む。静かでゆったりした時間。

18:00 夕食

じっくり煮込んだポトフと焼き鳥、阿部さんの差し入れである海苔巻きとネギの和え物の夕食。ポトフは、今回が初登場。レシピを見ながら心を込めてつくりました！お味は？

阿部さんは地域のことをいろいろ話してくれ、みんな興味を持って耳を傾けている。

次のプログラムは、体育館で遊ぶこと。遅くなって大丈夫かな？と、一人気を揉んでいるが・・・。

20:00 体育館へ

田んぼの道を下っていくと、すぐに体育館。のらえもんのための体育館のようだ。

好き勝手にボールで遊ぶ。シュートしてリンクに入れようとするが、そのボールが重い、届かない。あっちこっちで同じ

様なことをしている。自分が投げて、自分が拾いにいって……。そのくり返しでも、だんだん顔に笑みが増してくる。

30分もしたろうか？大縄を回し始めると、こっちに吸い寄せられてくる。まずは小さい子を、一人ずつ跳ばす。回った数を数える。一番回ったなつみさんは、なんと120回！今度は連続跳びに挑戦。一人が跳んで、次々と交代していく。なかなか続かない。が、みんな笑顔で挑戦意欲は十分！次は、大縄を跳びながら何人まで入れるかだ。2～3回まわると、誰かがひっかかる。その度に、「おいおい」と非難される。それは、大人であり子どもでもある。ルールが自然に出来、みんなが寛容だ。しかる言葉は、どこからも聞こえてこない。大雨の音。涼風が窓から入ってくる。もう十分、という雰囲気。

みんなで、なんとなく片付けをする。雨は止んでいる。

21:00 明かりを消して、体育館を出る。

真っ暗闇の中に、月明かり！唯一の明かりのある古民家に向かって、肝試しをしながら歩いていく。

たったの1時間だったが、すこぶる内容が良かったな！心配は無用だった。感謝、感謝。

布団を敷いて、寝る用意。

21:30 大人の反省会

今日も、囲炉裏を囲んで、反省会。こんな反省会は、毎晩でもいいな！

山口シェフの焼き鳥がうまい！

23:30 囲炉裏の回りで、ゴロリ！

GOOD NIGHT！

○3日目：4月30日（月）気温7，3℃

ストーブから登る白い煙を見ていると、「高倉に登りて見れば煙立つ民のかまどはにぎわいにけり」の言葉が浮かんで来る。今日は、上ノ原の野焼き見学だ。

9:30 上ノ原には森林塾青水を始めたくさんの人たちが集まり準備している。消防車も2台、待機中だ、

茅に火がつけられると、一気に赤い炎が舞い上がる。茅を燃え尽きさすと、やがて白い煙が立ちこめる。その後には、黒々とした焼け跡が残っている。風が熱風を送ってくる。煙に巻かれられないように動きながら見るこの様子は、緊張感が走る。野焼きをして、ススキの健全な発育を促しているという。ススキは秋に刈られ、茅葺きの屋根に使われるという。昔は、このような入会地が全国にあったという。

11:00 野焼きの様子を高見から望み、早めの昼食にする。

黒々とした野焼きの先には、まだ雪を残した谷川連峰が見え

- る。おにぎりが、うまい！
 今回、お昼は2回とも、関ヶ原に頼んだ。これは正解であった。活動の時間を、たくさん確保出来たからだ。
- 12:30 古民家に戻る。子どもたちは、ふりかえりの感想を書く。
 大人たちは、後かたづけだ。
 食器を虫が入らないように片づけ、火の始末をして、水道の元栓を閉める。電源を切って、完了だ。
- 14:00 記念写真を撮って、解散。

7, 親と子の、いきいき感想

- やまのぼりがたのしかったです。でも、やまのぼりはつかれました。
 たまごがおいしかったです。

小1

- * 「行かないで」 みんなとあそべば ひとりだち

母

- $1 \times 1 = 1$

やまのぼりは、たのしかったけど、ちょっとつかれた。

幼稚園年長

- * 3日間、たくさんお自然に触れ、リフレッシュできました。
 無駄の多い、普段の生活を見直すべき点が、いろいろあると感じました。
 古民家に泊まって感じる 文明の力

母

- やまを、のぼったのが、たのしかった。

小1

- むかしは当たり前だったことが、今はなかなか体験できないが、今回、自分たちも子どもにも体験させてあげられてよかった。
 やはり、人間は自然の中で自然とくらすのがいいなど、子どもの姿を見て思いました。
 自分が体調が悪く、半分しか楽しめなかつたので残念でした。また、気がつかけていただいたり、ご迷惑をおかけしました。
 次回は、体調万全でのぞみます。

父

- 久しぶりに自然の中を歩いて、気持ちよかったです。
 結華も、楽しかったみたいで、また行きたいと言っていました。
 古民家で みんなとザコ寝 楽しいな

母

- 古民家を見つけるのは、難しかった。
 ハイキングと写真撮るのが楽しかった。
 縄跳び、最高！
 虫は嫌いだけど、ちょっと勇気できた。
 満足した経験。
 かめむしは もう見たくない めしうまい